

第1号議案

(公財)コープともしびボランティア振興財団

2017年度事業報告

【 2017年度事業報告 】

1. 支え合う地域づくりをめざし、多様な活動に取り組む150グループに対し、総額912万4千円のボランティア活動助成を行いました。
2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を応援するため、地元企業7社から寄付を得て、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2グループに対し、各50万円の助成を行いました。また、同プロジェクトの賛同企業とのコラボイベントとして、「ちくわラン」を開催しました。
3. 財団設立20周年記念事業の1つである「地域の居場所立ち上げ助成」は、3年目を迎え、最終年として3グループに対し約45万円の助成を行いました。
4. 「古本募金 きしゃぽん」の取り組みが広がり、72万円を超える寄付額になりました。

I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援

1. ボランティア活動助成

(1) 2017年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成給付率(%)
①	福祉	高齢者	32	1,313,000	14.4
		障がい者	21	1,493,000	16.4
		地域住民	7	201,000	2.2
		在日外国人	1	108,000	1.2
		施設・病院	2	24,000	0.3
		その他(子育て中の親)	2	191,000	2.0
		合計	65	3,330,000	36.5
②	まちづくり		6	350,000	3.8
③	文化・芸術		4	486,000	5.3
④	国際協力		3	274,000	3.0
⑤	男女共同参画		1	135,000	1.5
⑥	子ども育成		41	2,717,000	29.8
⑦	環境の保全		28	1,661,000	18.2
⑧	その他 ※		2	171,000	1.9
合 計			150	9,124,000	100.0

※その他 は生活環境

(2) 「市民活動交流会 2017」を開催

2017年5月17日には、財団から「ボランティア活動助成」を受けるすべてのグループが一堂に会する「市民活動交流会 2017」を生活文化センターで開催しました。今年度は交流会の冒頭に「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」のお披露目も行い、賛同企業の紹介と感謝状の贈呈を行いました。この交流会の企画・運営は例年通り、助成団体の代表者による実行委員会が担当しました。

また、実行委員会で推薦のあった「舞子坂ふーみん」と「浜・川・山の自然たんけん隊」の2グループが、1年間の活動を報告しました。参加グループからは「先進的な活動事例が聞けて、刺激になった」との感想が寄せられました。

その後のグループワークでは、各グループの活動の紹介とともに、活動の課題や目標について、活発に情報交換が行われました。この会を通して、顔の見える関係ができ、互いのグループを訪問したり、一緒にできる活動を企画するなど、その後の連携のきっかけになっています。

(3) スタッフがグループ訪問し、地域課題を共有

2017年度助成をしているグループをスタッフが積極的に訪問し、グループがとらえている地域の課題や、活動の現状についてヒアリングを行いました。

1年間で、31グループについて訪問しましたが、その内容についてはチーム会で共有化を図り、テーマによっては運営委員会でも論議し、支援のしくみについて検討しています。2018年助成から新設した「きらり助成」も少額助成を求める声により、実現しました。その他、リーダーのなり手、広報についても課題が多く聞かれています。

2. 社会人の学びと研究助成

(1) 2017年度助成対象者

この助成制度は、「ボランティア活動を担う人を育てる助成」として2006年度にスタートしました。応募者の在籍大学の偏りや目標設定の見直しのため、2014年度・15年度は応募を中止、2016年度に応募を再開して、今年度は下記の2人の方に助成を行いました。7月24日に公開報告会を企画し研究の成果を共有する予定です。

お名前	在籍する大学院	研究内容
久保 宏紀	神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科	地域ボランティアの協力を得ながら、高齢者の身体機能を経年的に測定し、呼吸機能の低下による肺炎の発症予防について研究。その内容を健康パンフレットにまとめ、地域ボランティアと一緒に介護予防に取り組む。
井原 一久	大阪市立大学大学院 創造都市研究科	地域スポーツクラブ「アスロン」を運営するNPOの理事長。神戸市や兵庫県と学校体育における連携事業などを実施。スポーツクラブの地域の居場所としての有用性について研究し、地域課題を解決しうるコミュニティとしての在り方を探る。

() 内は助成金額

3. 「地域の居場所立ち上げ助成」

(1) 3年目として、3グループを助成 上限 30万円/団体

2017年10月6日に、「地域の居場所立ち上げセミナー&助成金説明会」を開催し、48名が参加しました。セミナーでは、昨年度同助成金事業として採択された「おうちごはんとくらしの学び舎ままや」と、「赤穂市地域活動連絡協議会」が事例報告しました。同じ志を持つ人との交流や、今後の情報収集を目的に参加した人も多く、活発に交流が行われました。結果として5件の応募があり下記3件の活動に対して助成を決定しました。

◇2017年度「地域の居場所立ち上げ助成」3グループ

グループ名	開設場所	活 動 内 容
コネクト∞～発達障害を考える会～	宍粟市	発達障がい当事者や親、パートナー(理解者、支援者)が月1回集い、困り感を出し合い、解決方法を探ると共に、研修会の開催、支援団体の視察等を行う。また、居場所周知のためにチラシを作成し、当事者による講演を行う
上山口東自治会 ”みんな集まれ”	西宮市	週1回、自治会館にて子ども食堂を運営し、遊び場・自習の場・子ども同士のふれあいの場の提供を行う。2～3年後には老人食堂、囲碁・将棋等趣味の場を開設し、孤独死を減らすため、コミュニティの輪を広げていく
cafe&Bar スタン ド・バイ・ミー in セラピー・ラボ	神戸市 須磨区	カフェ2階の空きスペースを活用し、中高年に対して傾聴、箱庭療法等様々な形態の癒し(セラピー)を提供。さらには若年層への啓蒙にも広げ、不登校、引きこもり等の若い人たちの問題を解決に導く支援を実施する

() 内は助成金額

(2) 3年間の成果

本助成は20周年記念事業として、2015年度から3年計画で取り組み、今年度助成で終了となります。当財団にとっては、懸案だった「テーマ型助成」かつ「立ち上げ時の助成」を実現した助成金制度となりました。これまでの2年間に助成した団体は、下記の8グループです。

◇2015年度助成団体

尼崎 ENGAWA 化計画、つながるまんまるうサロン、
なだ・ワークライフ・カフェ、舞子坂ふーみん

◇2016年度助成団体

おうちごはんとくらしの学び舎「ままや」、七丁目クラブ、
赤穂市地域活動連絡協議会、カフェ ボンジュール

この助成は、一旦終了しますが、一定の成果があったことから、2019年度以降、必要に応じてテーマ型の立ち上げ助成を行います。

4. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」

(1) 第1回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限 50 万円/団体、総額 100 万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を、賛同企業と力を合わせて応援しよう、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げました。

この助成では財団としては初めて、「NPO など法人格のある団体も応募可能」とし、対象団体の幅をひろげました。

第1回目となる今年度は29団体が応募し、書類選考を通過した7団体が7月4日の公開選考会に進みました。当日は、59名が参加する中、各団体がプレゼンテーションを行い、賛同企業とともに選考し、下記2団体への助成が決定しました。

グループ名/プロジェクト名	活動内容
特定非営利活動法人 多言語センター FACIL プロジェクト名 / 地域医療のコミュニケーション 改善プロジェクト	多様な地域住民が安心して医療をうけられるまちを目指し、医療従事者向け「医療通訳の使い方」講座と「わかりやすい日本語で伝えるコツ」講座を開催。日本語の理解が不十分な住民と医療従事者のコミュニケーションをサポートする医療通訳者の育成のため、医療通訳講習と医療通訳座談会も行う。
特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー プロジェクト名/ 認知症になってもあんしん 「認知症ライブラリー事業」	閑静な龍野の城下町にある空き家を改修して、住民や城下町を訪れる人々が気軽に利用できる「認知症ライブラリー」を作る。「認知症ライブラリー」では認知症に関する書籍や研修資料などが閲覧できるほか、専門職による相談会や本人・家族の会、認知症サポーター養成講座等を定期的に開催する

(2) 賛同企業の拡大

2016年度に地元企業7社のご賛同により、プロジェクトを立ち上げました。

2017年度は地元企業という枠を外して賛同企業を募集しました。コープこうべの宅配事業、店舗商品部などのご協力により、6社が新たに加わり、合計で賛同企業は13社となりました。

13社のご寄付による総額は160万円、次年度はこれを助成金として新たに4月から助成グループを募集しています。

5. ひと育て、学びの場の充実

(1) 研修事業を実施・助成

「ボランティア活動に参加してみたい、学んだことを広げていきたい、今よりもレベルアップしたい」方に向けて地域で企画された講座に対して、助成を行いました。4地域のコープこうべ地区活動本部が主催し、12講座に331人が参加しました。

認知症の基礎知識や最新の研究内容に基づいて認知症を予防する講座や、コミュニケーションの大切さや、対人援助についてより深く学ぶ講座などが開催されました。参加者が、新たにグループを立ち上げるなどの動きにつながっています。

(2)新しい課題についてセミナーを実施

2017年度は「ひょうご子どもカフェ」とともに主催団体の1つとして「子ども食堂」をテーマとした全国キャラバンのセミナーを開催しました。すでに子ども食堂を実施している団体が参加し、現状の成果と課題について情報交流しました。

※「ひょうご子どもカフェ」は兵庫のみんなで子どもの貧困を考え、行動していくゆるやかなネットワーク。行政職員、弁護士、学識者、NPO法人など様々なメンバーが参加しており、当財団も2016年度から参加しています。

II. 地域に当財団の理解者、支援者を拡大

1. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」コラボイベント開催

同プロジェクトのキックオフイベントとして賛同企業の1つである「カネテツデリカフーズ株式会社」とともに六甲アイランドで、「寄付つき ちくわラン」を開催しました。

当日は台風が近づくあいにくの雨にも関わらず、93人が参加し、ランだけでなく、ちくわづくりや、健康チェック、カネテツさんの商品の試食などを楽しみました。また、視覚障がいのある方の歩行やランを応援している「ひょうご伴走歩協会」のメンバーも参加して活動紹介も行い、ボランティアメンバーの募集も行いました。

参加者は小学生から40代の若い層が中心で、このイベントが財団について関心を持っていただくきっかけになりました。次年度も、賛同企業と、コラボイベントを開催する予定です。

2. 助成グループの活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ツムギスト（広報ボランティア）の活動

地域に支援者を広げていくためには、助成金がどんなグループや活動に活用されているかについて広報することが最も有効なのではないかと考え、2017年度は助成グループの広報に力を入れました。

その1つとして、財団の評議員でもある桜間裕章氏（神戸新聞社 前論説委員長）を講師にお迎えし、ツムギストの養成講座を行いました。ツムギストは助成グループを実際に訪問して、地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、“物語”を紡ぐ広報ボランティアです。初年度の今年は、コープこうべの職員を対象に講座を行い、終了後に7人のツムギストが、8グループを訪問しました。

ツムギストによる、“物語”は、財団のホームページに掲載しています。この活動は、取材されるグループに大変喜ばれたこと、また記事を見て活動への問い合わせなどの反応があったことから、次年度も継続します。

(2) ホームページで助成グループのイベントを掲載

グループが財団に支援してほしいこととして、「広報活動」があることを受け、2017年度から、助成グループが広く参加者を募集したいイベントや学習会について、財団のホームページへの掲載を始めました。1年間で29件掲載しましたが、問い合わせがあるなど好評で、効果を実感したグループからは継続的に掲載依頼があります。

(3) 募金などの広報ツール

10月の集中募金のチラシ、ポスター作成にあたっては、3つの助成グループを取材し、その活動内容を訴えることで、募金を求めました。

3. 財団の認知度などについてアンケートを実施

Ⅲ. コープこうべとの連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を向上

1. 広報強化の継続・発展

(1) コープこうべの事業媒体に掲載

2017年度も、コープこうべの関連部署による広報活動が行われました。

- ① コープステーション (A4変型判・約120ページ) 2018年2月発行 85,000部
当財団の「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」について、山口理事長のインタビューとともに掲載されました。
- ② 『めーむ』食品編 欄外情報 (タブロイド・カラー) 1月4週号 47万部発行
- ③ 店舗情報誌 (カラー) 店名下広告欄 2018年2月9日発行 100万部

(2) SNSの活用

2. 人材育成の連携強化

(1) 財団の研修やセミナーなどへのコープこうべ職員の参加促進

(2) 財団サポーター登録の推進

3. 資金調達の連携強化

(1) 賛助会費・寄付・募金について

(2) 古本募金「きしゃぼん」の取り組み

2016年の7月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぼん」は組合員の年代、ニーズにマッチし、2017年度は大きく実績を伸ばしました。組合員からの要望で、回収ボックスを常設するコープの事業所も増え、現在21か所に設置しています。

組合員まつりの一環として取り組んだり、「古本市」を行い、売り上げを財団に寄付してくれたコープ委員会もありました。小さなお金の積み重ねですが、今年度は、計723,841円の募金に成長しました。次年度は、さらに工夫し、取り組んでもらえる人を増やします。

(3) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。

4. 基本財産運用